MEIJO Q&A

都市情報学部　都市情報学科

Q まちの大きさは、どうやって決めたらいいの？

運営がなりたつ「大きさ」と、自治ができる「小ささ」のバランスを考えて、市町村の最小サイズが決まります。

「地方分権」により、地域ごとに「自分たちでものごとを決められるまち」を。

近年、「地方分権」という考え方が注目されています。地方分権とは、国がもっている決定権や予算を地方に移して、住民に身近な行政サービスについては、地域ごとに決められるようにしていくこと。これにより国が一元的に定めた政策ではなく、それぞれの自治体が地域にあわせて対応できるようになります。また、地方分権により、当事者の意見が反映されやすくなり、より「自分たちで決めた」という納得感のある政策ができるようになることが期待されています。これからの地方自治にはこのように「自分たちのことは自分たちで決める」という姿勢がこれまで以上に重要になってきます。

「地方分権」を突き詰めると、まちは小さければ小さいほどいい？

地方分権の考え方を突き詰めていくと、当事者の意見をより反映しやすくするためには、国から県や市、町へとどんどんと分権し、より小さな単位ごとに地方自治を行っていくほうがいいのではないかとも思えます。しかし一方で、日本ではこれまで幾度となく市町村合併が行われ、小さなまちが統合されてきています。これは少子高齢化や過疎化などにより、自治体としての運営が立ち行かなくなるまちが出てくるため。そのため私たちは、自治体として運営できる「大きさ」と住民の意見が反映できる「小ささ」のバランスを見極めながら、適切なサイズの市町村を定めていく必要があるのです。

TEACHER'S PROFILE

昇　秀樹 先生
Noboru Hideki

京都などの景観が守り続けられているまちと、私の出身地である大阪のまちがどうしてこんなに違うのだろうとふと疑問に思ったことが、まちづくりに興味をもったきっかけ。以来、大学や自治省（現在の総務省）で、ずっと地方自治やまちづくりについて研究してきました。

マイブーム紹介

さまざまなまちに旅にでかけ、思いを巡らせる。

学生時代、ユースホステルをめぐり、日本全国さまざまなところへ行っていました。今でも長期休暇にはよく旅行に出かけています。旅先でいろいろなまちを見て、まちづくりについて思いを巡らすことが研究にもつながっています。